石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事 業 報 告 書

第 6 巻

令和元（2019）年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻　頭　言

令和元年の年度末（巻頭言執筆中の現在）、新型コロナウイルスが世界規模で広がっており、人々にとって感染拡大の脅威が高まっています。医療機関や介護・福祉機関において、感染予防やケアの最前線で日夜、業務に従事している医療関係者の皆様に敬意を表します。国家をあげての感染対策については、エビデンスに基づく知識と技術が求められており、看護職の果たす役割は大きいものです。感染管理看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力のある認定看護師（感染管理認定看護師）は、各機関における感染対策委員会設置や対策マニュアルの整備、職員研修などにおいて、多職種と連携を図りながら進めてゆくことが求められます。また地域における予防やパンデミックなどの感染拡大時の対策など、社会全体での予防や正確な情報の伝達などにも実践力を発揮することが必要とされています。地域医療現場における感染管理の中心となる看護職の養成に取り組むことが急務なこの時期において、看護キャリア支援センターは、次年度より「感染管理認定看護師教育課程」を開講いたします。医療を提供する場で働く人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理を実践し、それらに対し指導できる能力を育成すること、また対象の相談に対応し、問題解決できる能力を育成すること、等の教育目的にむけて教育を行います。

さて、「認知症看護認定看護師教育課程」は平成 29～令和元年の 3 年間にわたり開講し、90 名（令和元年の 3 期生 29 名を含む）の修了生を輩出して参りました。高齢化社会における認知症者と家族のケアは、今後ますます重要となることは必須です。修了生らが地域における認知症ケアに貢献していただけることを期待し、今期をもちまして本課程休講をすることになりました。これまでにご支援くださいました多くの関係者の皆様に深く感謝しております。また修了生の皆様は、今後におきましても石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター認定看護師教育課程をもり立てていただきたいと思います。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
林　　一 美

目　　次

(ページ)

Ⅰ．認知症看護認定看護師教育課程 ……1-5
　１．目的・目標 ……1
　２．実施状況 ……1
　３．実施内容 ……1
　４．評価……4
　５．今後の課題 ……5
Ⅱ．認知症看護認定看護師教育課程 フォローアップ研修 ……6-7
　１．目的・目標 ……6
　２．実施状況 ……6
　３．実施内容 ……6
　４．評価……6
　５．今後の課題 ……7
Ⅲ．感染管理認定看護師教育課程の再開講準備……8
　１．再開講準備 ……8
　２．入学試験説明会の開催 ……8
Ⅳ．感染管理認定看護師教育課程フォローアップ研修 ……9
　１．目的・目標 ……9
　２．実施状況 ……9
　３．実施内容 ……9
　４．評価……9
　５．今後の課題 ……9
Ⅴ．専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」……10-12
　１．目的・目標……10
　２．実施状況 ……10
　３．実施内容 ……10
　４．評価および今後の課題 ……11
Ⅵ．専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」……13-17
　１．目的・目標 ……13
　２．実施状況 ……13
　３．実施内容 ……13
　４．評価……15
Ⅶ．石川県看護教員現任研修事業 ……18-20
　１．目的・目標 ……18
　２．実施状況 ……18
　３．実施内容 ……18
　４．評価……19
　５．今後の課題 ……20
Ⅷ．教育課程継続に関するニーズ調査 ……21
　１．目的 ……21
　２．方法 ……21
　３．結果 ……21
　４．まとめ ……21

Ⅰ．認知症看護認定看護師教育課程

１．目的・目標

１）　認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践ができる能力を育成する。

２）　培った認知症看護の専門的な知識と技術を活かし、看護職に対して指導・相談対応できる能力を育成する。

３）　あらゆる場において、認知症者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアを看護職や他職種と協働して提供できる能力を育成する。

２．実施状況

【期間】

令和元年７月３日（水）～　令和２年２月 12 日（水）

【履修生数】

29 名

【履修生の背景】

１）　基本属性

性別	男性９名　女性 20 名
平均年齢	40.1（28－55）歳
所属施設の所在地	石川県：９名、富山県：８名、福井県：３名、愛知県：２名 秋田県：１名、新潟県：１名、長野県：１名、和歌山県：１名、 大阪府：１名、兵庫県：１名、高知県：１名

２）　入学時の臨床経験年数と認知症看護に関する実務経験年数　（表 1）

表１　入学時の臨床経験と認知症看護に関する実務経験

	臨床経験（名）	認知症看護に関する実務経験（名）
3 ～5 年	2	5
6 ～10 年	12	16
11 ～15 年	8	10
16 ～20 年	4	0
21 ~	5	0
平均経験年数	13 年	9 年

３．実施内容

【教育課程の実施状況】

認知症看護認定看護師教育課程の年間スケジュールは表２に示す。

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表３に示す。

表２　年間スケジュール

日程	実施内容
7 月 3 日	開講式
7 月～10 月	講義・演習
10 月 28 日～11 月 1 日	見学実習
11 月 5 日～12 月 6 日	臨地実習
令和 2 年 1 月 7 日、8 日	実習成果発表
1 月 15 日	特別講義
1 月 21 日	修了試験
2 月 12 日	修了式

表３　授業科目と時間数

授　業　科　目		時間数	
共通科目	医療安全学：医療倫理	15	120
	医療安全学：医療安全管理	15	
	医療安全学：看護管理	15	
	臨床薬理学：薬理作用	15	
	チーム医療論（特定行為実践）	15	
	相談（特定行為実践）	15	
	指導	15	
	医療情報論	15	
専門基礎科目	認知症看護原論	15	90
	認知症基礎病態論	15	
	認知症病態論	45	
	認知症に関わる保健・医療・福祉制度	15	
専門科目	認知症看護倫理	15	150
	認知症者とのコミュニケーション	15	
	認知症看護援助方法論Ⅰ（アセスメントとケア）	45	
	認知症看護援助方法論Ⅱ（生活・療養環境づくり）	30	
	認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント）	30	
	認知症者の家族への支援・家族関係調整	15	
学内演習		90	
臨地実習		180	
総時間数		630	

【担当教員】

主任教員：堅田三和子（助教）

担当科目：医療安全学：医療倫理、医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）、認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅰ、認知症看護援助方法論Ⅱ、認知症看護援助方法論Ⅲ、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習、臨地実習

専任教員：多幡明美（講師）

担当科目：医療安全学：医療倫理、医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）、認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅰ、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習、臨地実習

【非常勤講師】

専門基礎科目、専門科目は認知症（看護）分野における第一線の認知症専門医、各専門医分野の大学の教授・准教授・講師、各専門医分野の医師や看護師、北陸３県の認知症看護認定看護師の方々に非常勤講師として講義･演習等を担当していただいた。非常勤講師と担当科目一覧を表４に示す。

表４　非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
池田富三香	国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校	医療安全学：医療倫理
中田　恵子	やわたメディカルセンター	医療安全学：医療安全管理
村本恵美子	芳珠記念病院	医療安全学：医療安全管理
北村　立	石川県立高松病院	臨床薬理学：薬理作用、認知症基礎病態論
阪上　学	国立病院機構金沢医療センター	臨床薬理学：薬理作用
藤村　政樹	国立病院機構七尾病院	臨床薬理学：薬理作用
臼倉　幹哉	芳珠記念病院	臨床薬理学：薬理作用
村井　千賀	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
深田　晃子	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
北出　恵子	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
下川千賀子	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
坂上　章	石川県立高松病院	チーム医療論（特定行為実践）
嶋田由美子	公立つるぎ病院	チーム医療論（特定行為実践）、認知症看護援助方法論Ⅱ
新　博恵	地域医療機能推進機構金沢病院	相談（特定行為実践）
吉村　光弘	公立能登総合病院	医療情報論
稲垣　時子	国立がん研究センター東病院	医療情報論
高山　成子	金城大学	認知症看護原論
林　浩靖	光ヶ丘病院	認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅲ
山田　正仁	金沢大学	認知症病態論
野崎　一朗	金沢大学附属病院	認知症病態論
小松　潤史	金沢大学	認知症病態論
粟田　主一	東京都健康長寿医療センター研究所	認知症に関わる保健・医療・福祉制度
武田　智美	金沢市地域包括支援センターかみあらや	認知症に関わる保健・医療・福祉制度
髙道　香織	国立病院機構医王病院	認知症看護倫理
田中ひとみ	公立つるぎ病院	認知症看護倫理
向井　紀子	富山赤十字病院	認知症看護倫理
福井　亜紀	芳珠記念病院	認知症者とのコミュニケーション
直井千津子	金沢医科大学	認知症看護援助方法論Ⅰ
森垣こずえ	金沢医科大学病院	認知症看護援助方法論Ⅰ
久米　真代	金城大学	認知症看護援助方法論Ⅰ
松田　美紀	石川県済生会金沢病院	認知症看護援助方法論Ⅰ
湯浅美千代	順天堂大学	認知症看護援助方法論Ⅱ
鈴木みずえ	浜松医科大学	認知症看護援助方法論Ⅱ
徳田真由美	公立小松大学	認知症看護援助方法論Ⅱ
和田　敏道	福井県立すこやかシルバー病院	認知症看護援助方法論Ⅱ
高見　英子	金沢赤十字病院	認知症看護援助方法論Ⅱ
岩尾　貢	社会福祉法人鶴寿会サンライフたきの里	認知症看護援助方法論Ⅲ
諏訪さゆり	千葉大学	認知症看護援助方法論Ⅲ
川島由賀子	浅ノ川総合病院	認知症看護援助方法論Ⅲ
七野奈美喜	かほく市長寿介護課高齢者支援センター	認知症看護援助方法論Ⅲ
平元まどか	石川県済生会金沢訪問看護ステーション	認知症看護援助方法論Ⅲ
髙森巳早都	福井大学医学部附属病院	認知症看護援助方法論Ⅲ
原　等子	新潟県立看護大学	認知症者の家族への支援・家族関係調整
浅見　洋	石川県立看護大学	医療安全学：医療倫理
丸岡　直子	石川県立看護大学	医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）
川島　和代	石川県立看護大学	医療安全学：看護管理、認知症に関わる保健・医療・福祉制度、認知症者とのコミュニケーション
長谷川　昇	石川県立看護大学	臨床薬理学：薬理作用
石川　倫子	石川県立看護大学	指導
武山　雅志	石川県立看護大学	相談（特定行為実践）
垣花　渉	石川県立看護大学	医療方法論、学内演習
市丸　徹	石川県立看護大学	認知症基礎病態論
中道　淳子	石川県立看護大学	認知症病態論
金川　克子	石川県立看護大学参与 特定非営利活動法人いしかわ在宅支援ねっと	認知症に関わる保健・医療・福祉制度
清水　暢子	石川県立看護大学	認知症看護援助方法論Ⅰ
石垣　和子	石川県立看護大学	認知症者の家族への支援・家族関係調整
林　一美	石川県立看護大学	医療情報論、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習

【臨地実習施設】

看護実践実習施設は表 5、見学実習施設は表 6 に示す。

表 5　看護実践実習施設と実習指導者

施設名	実習指導者（認知症看護認定看護師）
医療法人社団浅ノ川総合病院	川島由賀子
金沢赤十字病院	高見 英子
石川県済生会金沢病院	松田 美紀
独立行政法人地域医療機構金沢病院	新　博恵、干場るみ子
公立つるぎ病院	田中ひとみ、秋田和賀子
医療法人社団芳珠記念病院	福井 亜紀
富山赤十字病院	向井 紀子
かみいち総合病院	竹内 雅代
市立砺波総合病院	畑 真夕美
国立病院機構北陸病院	吉岡真紀子、松井 常二
医療法人光ヶ丘病院	林　浩靖
福井大学医学部附属病院	髙森巳早都
福井県立すこやかシルバー病院	和田　敏道、荒井　岐枝
石川県立高松病院	畠　真理子

表 6　見学実習施設

訪問看護事業所施設名
石川県立高松病院地域医療連携室
医療法人社団あさのがわ訪問リハビリ・訪問看護ステーション
医療法人芳珠記念病院ほうじゅ訪問看護・リハステーション緑が丘
石川県医療在宅ケア事業団かほく高松訪問看護ステーション
石川県医療在宅ケア事業団白山鶴来訪問看護ステーション
地域医療機能推進機構金沢病院附属訪問看護ステーション
石川県済生会金沢病院金沢訪問看護ステーション
金沢赤十字病院訪問看護ステーション
市立砺波総合病院砺波市訪問看護ステーション
入居・入所施設名
有限会社朝日ケアあさひホーム吉作
特定非営利活動法人老人介護マトリックスとまり木グループホームあおぞら
社会福祉法人共友会グループホームやたの
社会福祉法人眉丈会特別養護老人ホーム眉丈園
社会福祉法人鶴寿会特別養護老人ホームサンライフたきの里
社会福祉法人福寿会特別養護老人ホーム福寿園
社会福祉法人津幡町福祉会特別養護老人ホームあがたの里
社会福祉法人あさひ会特別養護老人ホームあたかの郷

４．評価

【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習について、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。修了生 29 名は、2020 年 5 月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。

履修生は教育課程において多くの学びを得た。教育課程に関する意見については、アンケートを実施して把握した。

【履修生の学んだ内容（一部抜粋)】

1）講義・演習

・著名な先生方の講義を聴くことができ、貴重な機会となった。良い刺激となり、学ぶ意欲にもつながった。より一層、学習、自己研鑽し努力してゆこうと思う。

・講義で学んだことが実習につながっていた。この学びを今後の看護につなげていきたい。

2）実習

・認知症者を全人的にとらえ、持てる力を引き出し、残存能力を生かせるケアを行っていく重要性を学ぶことができた。

・実習指導者の活動を見学し、責任の重さ、活動の範囲・広さを知った。

・実習では知識だけでなくマネジメント力の重要性を学ぶことができた。

3）教育課程を通して

・認知症看護認定看護師になるという同じ目標をもって、同じ方向を向いて進む人達が集まっているので、勉強するにあたり良い刺激となった。

・認知症看護の考え方をしっかり学習できたことは、今後認知症看護認定看護師として活動していくのに必要となる。

５．今後の課題

3 年間の教育課程の実施を通して教育内容の充足や日程の調整を行ったことは、履修生全員が 8 か月間集中して認知症看護を学ぶことができた。

今後修了生は自施設にて、今までの知識や能力を充分に発揮し、認知症看護認定看護師として活躍していくことを期待する。次年度より認知症看護認定看護師教育課程は休講予定であるが、修了生の意見を参考に修了生が互いの知識向上を目指すフォローアップ研修を継続していく。

Ⅱ．認知症看護認定看護師フォローアップ研修

１．目的・目標

認知症看護認定看護師としての活動状況や事例内容を共有し、学びを深めるとともに新しい知見と情報交換を行い今後の活動に活かすことができる。

２．実施状況

		10／26	2／8
【受講者数】	総数	68 名	69 名
	1 期生	20 名	24 名
	2 期生	25 名	23 名
	3 期生	23 名	22 名

３．実施内容

表 1.　研修内容と講師

日　時	研修内容	講　師
10 月 26 日 （土） 13：00～ 16：00	＜第 1 部＞ 実践報告会 ～認知症看護認定看護師として歩み始めて～ ＜第 2 部＞ 講演 認定看護師認定更新審査のアドバイス	＜座長＞ 公立宇出津総合病院　中町　綾子（1 期生） 公立穴水総合病院　苗代　時穂（1 期生） 河北中央病院　高橋　桐代（2 期生） 国立病院機構　金沢医療センター 谷保　和美（2 期生） ＜実践報告＞ 公立丹南病院　堀　佑利恵（1 期生） 関西労災病院　足立　理恵（2 期生） ＜事例提供＞ 恵寿金沢病院　濱下　朋子（1 期生） ＜講師＞ 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 認定看護師教育課程教員　堅田三和子
2 月 8 日（土） 13：00～ 16：00	＜講演＞ 認知症高齢者の意向を尊重した意思決定支援	＜講師＞ 江別市立病院 教育担当副看護師長 老人看護専門看護師　山下　いずみ

４．評価

【受講者の学び（一部）】

＜実践報告会＞

・他施設の活動を知ることができ、認定看護師としての役割を再確認できた。

・よくある症例だがさまざまな意見が聞けたことで自分の中の知識など整理する機会になった。

・認定看護師としてどう考え、対応すべきなのか、仲間と意見交換することができ、日々の自分の加算対応に追われる中で忘れかけていたものもモチベーションも戻ってきた気がする。

・自分も悩んでいる内容だったので、意見共有できてよかった。

・今後の活動の参考になった。

＜講演・認知症高齢者の意向を尊重した意思決定支援＞

・認知症の方だけでなく、ご家族の方とも日頃からお話ししておくことが大切だと感じた。
・日常の中の全てが意思決定の連続であることを改めて思った。いかに、患者さんに普段尋ねていないか身につまされた。ご本人、家族を含め、コミュニケーションをとり、意向を確認していきたい。
・意思決定支援をするということは、本人に決めていただくということではなく、意思決定をするまでのプロセスを大切にして関わることだということを改めて感じた。
・知識を身につけても現場では対応困難な患者に苦慮することが多いと感じている。自分が頑張っていることを認めること、患者に関心を寄せることが大事という話を聴き、新たに頑張ろうという気持ちになった。

５．今後の課題

実践報告や講演を通して、認知症看護認定看護師としての自己の活動を見直す機会となり、明日から実践できる内容となった。フォローアップ研修をおこなうことで、1 期生から 3 期生との交流を図る機会となり、今後の原動力につながったと考える。

今後も継続して、各期の修了生の代表で研修内容を企画し、修了生のニーズに沿った研修を支援していく。

Ⅲ．感染管理認定看護師教育課程の再開講準備

１．再開講準備

令和元年７月に､感染管理認定看護師教育課程の再開講の準備担当者として特任准教授を配置し、感染管理認定看護師教育課程の規定および細則の策定、カリキュラムの構築と講義担当教員（非常勤講師を含む）や実習施設の確保などの開講準備を行った。

感染管理認定看護師教育課程の入学試験は令和２年２月 29 日（土）に行い、開講は同年７月７日（火）を予定してる。

２．入学試験説明会の開催

今年度は、２回の入学試験説明会を実施した。説明会の概要を以下に示した。

回	開催日	内容・担当者	参加人数
1	7 月 27 日（土）	1. 感染管理認定看護師教育課程の概要 （教育目的・内容、出願資格、入学試験方法等） 担当：特任准教授　浅見美千江 日向千恵子（金沢医科大学病院　感染管理認定看護師） 2. 感染管理認定看護師の活動の実際と受験アドバイス 担当：松沢　麻里（石川県立中央病院　感染管理認定看護師） 高本　恭子（富山労災病院　感染管理認定看護師） 3. 個別相談 担当：横地　仁美（市立輪島病院　感染管理認定看護師） 待島由起子（金沢脳神経外科病院　感染管理認定看護師） 松沢　麻里（石川県立中央病院　感染管理認定看護師） 日向千恵子（金沢医科大学病院　感染管理認定看護師） 高本　恭子（富山労災病院　感染管理認定看護師） 品川さおり（公立羽咋病院　感染管理認定看護師） 井上　清子（富山県済生会富山病院　感染管理認定看護師）	28 名
2	11 月 2 日（土）	1. 感染管理認定看護師教育課程の概要 （教育目的・内容、出願資格、入学試験方法等） 担当：特任准教授　浅見美千江 日向千恵子（金沢医科大学病院　感染管理認定看護師） 2. 感染管理認定看護師の活動の実際と受験アドバイス 担当：松沢　麻里（石川県立中央病院　感染管理認定看護師） 高本　恭子（富山労災病院　感染管理認定看護師） 3. 個別相談 担当：横地　仁美（市立輪島病院　感染管理認定看護師） 待島由起子（金沢脳神経外科病院　感染管理認定看護師） 松沢　麻里（石川県立中央病院　感染管理認定看護師） 日向千恵子（金沢医科大学病院　感染管理認定看護師） 高本　恭子（富山労災病院　感染管理認定看護師） 品川さおり（公立羽咋病院　感染管理認定看護師） 井上　清子（富山県済生会富山病院　感染管理認定看護師）	36 名

Ⅳ．感染管理認定看護師フォローアップ研修

１．目的・目標

認定看護師更新審査における審査準備の実際を学び更新審査の備えができる。また、感染管理認定看護師として兼任から専従への転機について考え、今後の活動につなげていくことができる。

２．実施状況

【参加者数】　50 名

講演の様子

３．実施内容

表 1.　研修内容と講師

実施日	研修内容	講師
10 月 5 日（土）	「今までの軌跡と次なるステージに向けて」 第1部　講演 認定看護師更新審査の手順・手続きについて 第 2 部　シンポジウム 感染管理認定看護師の活動 ～兼任から専従への転機～	＜講師＞ 公立つるぎ病院 感染管理認定看護師　嶋田由美子氏 ＜座長＞ 富山労災記念病院　高本恭子 市立ひらかた病院　田邊大地 ＜シンポジスト＞ 恵寿総合病院　1 期生：谷田部美千代 愛成会山科病院　2 期生：重面由香

４．評価

1 期生から 3 期生の代表が集まり、感染管理認定看護師としての活動を継続・発展させていくために上記の研修内容に決定した。嶋田先生による講演では、実際の活動の紹介と共に認定審査に向けての注意事項などを分かりやすく説明を受け、認定審査に向けた心構えができていた。シンポジウムでは、修了生 2 名から実際の活動報告を受け、兼任・専従であってもそれぞれの立場でできることがあること、また、多くのサポートがあるため活動ができているということを再学習できていたと考える。

５．今後の課題

今後も引き続き、各期の修了生の代表で話し合い、修了生のニーズに沿った研修を企画していく。

Ⅴ．専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

１．目的・目標

【目的】

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

【目標】

自施設の経営管理課題に対し、解決策を査定することができる。

２．実施状況

石川県内 25 施設から 34 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 25 年、管理者経験年数は平均 4 年、職位は看護部長 3 名、副看護部長 1 名、看護師長 25 名、副看護師長 2 名、課長 2 名、副課長 1 名であった。なお研修前半 2 日を公開講座とし、延べ 100 名が参加した。

３．実施内容

令和元年 9 月 6 日、7 日、12 日、27 日に下記の内容で、前半の 2 日は講義形式、後半の 2 日は講義・演習形式により研修を実施した。（表 1）。

表 1 .研修日程と内容

日　時	研修内容	講　師
9 月 6 日（金）		
9:30～16:00	看護管理者のための 病院経営数字力	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長　　西村 路子
9 月 7 日（土）		
9:00～16:00	組織分析に基づく看護管理上の課題解決に向けた戦略	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長　　西村 路子 （ファシリテーター） 種谷 敦子（公立能登総合病院） 坂本 和美（金沢市立病院） 橋本 陽子（公立つるぎ病院） 勝島 美和（南ヶ丘病院）
9 月 12 日（木）		
9:00～16:00	【公開講座】 看護現場学 －看護経験の概念化を通して－	看護現場学サポーター 陣田 泰子
9 月 27 日（金）		
9:30～12:30	【公開講座】 地域包括ケア時代における 看護管理者の役割	石川県立看護大学 特任教授　丸岡 直子
13:30～16:30	【公開講座】 人々の在宅療養を支援し 地域に根ざす病院の役割	脳神経センター大田記念病院 大田 章子

４．評価及び今後の課題

１）受講生のアンケートによる評価

（1）研修内容の理解と活用（図 1）

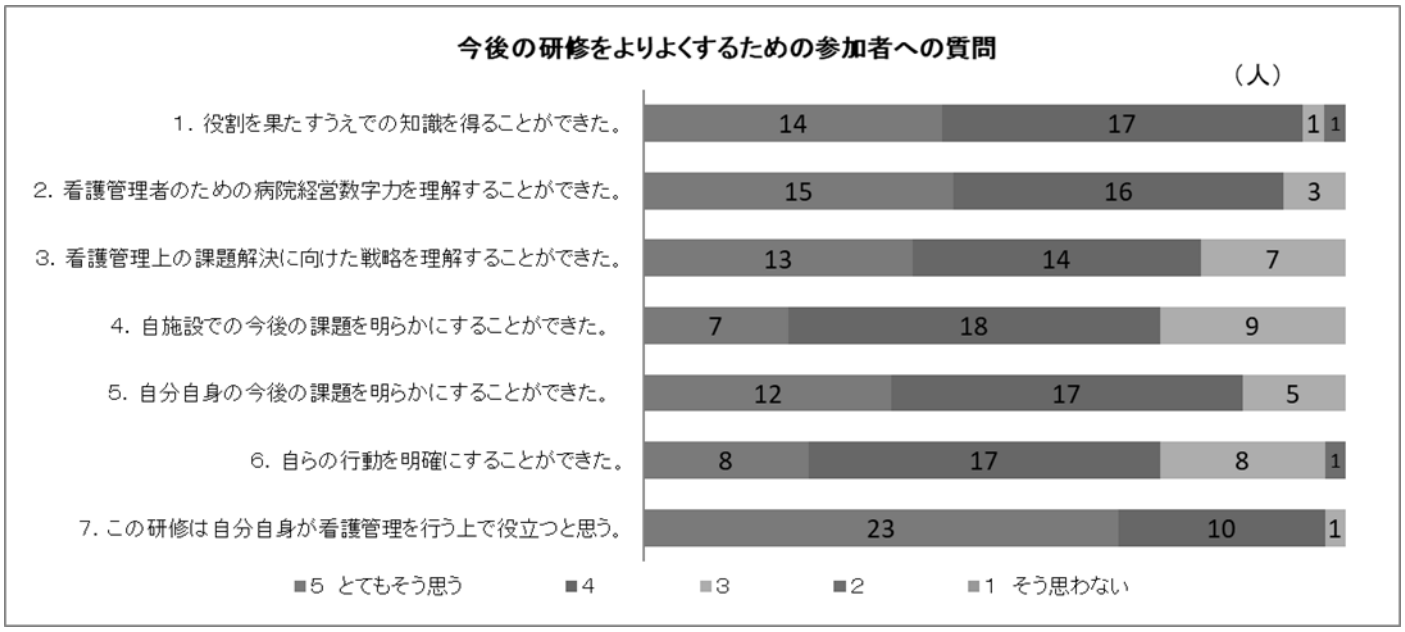

図 1. 研修内容の理解と活用

（2）自由記載より（抜粋）

・得られた知識が多々あり、有意義な 4 日間を過ごさせていただきました。これからの自分自身にとってとても糧になります。他の方の話もいろいろ聞く事ができ、刺激にもなり、モチベーションを上げてこれからの頑張ることができます。

・ナラティブは全ての人に共通であるが、現場では忘れさられてしまうことが多かった。トップの者が大切にして声に出すことでスタッフの意識も変わると感じました。立ち止まりをスタッフと一緒にしていきたいと思います。

・管理者として自分の知識で自信のない部分の話をたくさん聞くことができ日頃のモヤモヤが解消されました。とても学びのある研修でした。

・4 日間の研修では今の状況（時間外や自分の仕事の管理がつかず目標をもって取り組めていなかった）をなんとかヒントや学びを得て、方向を導きたいと思って参加しました。本当に実のある研修で、まず自分でデータを出してみることから、そして世の中の動向をみて、見える化を実践して頑張ります。

・データを活用した看護管理について分かり易く説明され実践に活用できる内容であった。地域の鍵は「自助」と「互助」印象的でした。もっと外に目を向けていく必要があると感じました。

・他施設の事も情報を得るよい機会でした。地域包括をうまく回す事の難しさを感じていましたが、研修で得たことを活用して取り組んでいきたいと思いました。

・データに基づく看護管理について理解を深められてとても良かった。

・つながる、つなげる看護ということで退院、訪問看護を検討したいと思います。スタッフのモチベーションアップにもつながればと思います。

・個性的な講師の方々のお話を楽しく聞けました。反面、自施設での今後の活動を考えると頭が痛くなりますが学んだ事を活かせるように頑張ります。

2）全体的な評価

本事業は平成 27 年～本年度の 5 年にわたり継続しており、実施状況及び参加施設数や参加人数等も例年と同等であった。講義と演習において自施設の振り返りが行え、課題解決の戦略を検討することが受講生にとって満足度が高く、有意義な事業であると捉えていた。また魅力あるテーマ 3 演題で公開講座を取り入れたことも受講生のニーズに沿ったものとなった。

西村 路子先生

陣田 泰子先生

丸岡 直子先生

大田 章子先生

Ⅵ. 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

１．目的・目標

【目的】

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

【目標】

皮膚・排泄ケア看護に関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況より、解決策を考えることができる。

２．実施状況

石川県内 34 施設から 42 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 16.6 年、所属施設は 300 床以上の病院 12 名、100～299 床の病院 17 名、99 床以下の病院 6 名、訪問看護ステーション 7 名であった。

３．実施内容

令和元年 8 月 31 日、9 月 14 日・15 日・21 日・29 日の計 5 日間の研修で、ストーマ・創傷・失禁ケアの 3 分野に関し講義と演習の方法で実施した。（表 1－1～3）。

表 1－1．　研修日程と内容

日時	研修方法	分野	科目･講師
8 月 31 日（土）			
9：50～10：50	講義		看護の動向について 石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ 係主査　倉下　陽子
11：00～12：20	講義	Ostomy	泌尿器ストーマと失禁の管理 金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授　森山　学
13：20～14：40	講義	Ostomy	消化器ストーマと術後管理 金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授　藤田　秀人
14：50～16：10	講義	Ostomy	瘻孔管理 小川医院 院長　小川　滋彦
9 月 14 日（土）			
9：30～10：30	講義	Ostomy	ストーマケアの基礎 石川県立看護大学 教授　紺家　千津子
10:30～11：30	講義	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア 金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　小西　千枝

表 1－2.　研修日程と内容

日時	研修方法	分野	科目・講師
9 月 14 日（土）			
11:40～12：30	講義	Ostomy/ Wound	がん薬物療法時のスキンケア 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授　松井　優子
13：30～14：40	講義	Wound	創傷治癒と DESIGN-R 石川県立看護大学 教授　紺家　千津子
14：50～16：10	講義	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法 金沢医科大学 名誉教授　川上　重彦
9 月 15 日（日）			
9：30～10：50	講義	Wound	褥瘡のリスクアセスメント 金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　小西　千枝
11：00～12：20	講義	Wound	栄養管理とアセスメント 芳珠記念病院 栄養管理室 管理栄養士　坂下　理香
13：20～14：10	講義	Wound	体圧管理 金沢大学 学術創成研究機構 教授　須釜　淳子
14：10～15：00	講義	Wound	褥瘡のリハビリテーション あっとほーむな訪問看護ステーションやまと 理学療法士　神野 俊介
15:10～16：10	演習	Wound	ポジショニング 須釜　淳子、神野 俊介、小西　千枝、 紺家　千津子
9 月　21 日（土）			
9：30～10：50	講義	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択 JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　山下　美樹
11：00～12：20	講義	Wound	MDRPU(医療関連機器圧迫創傷) 金沢医科大学 看護学部 准教授　皮膚・排泄ケア認定看護師 木下　幸子
13：20～14：40	講義	Wound	スキン-テア 石川県立看護大学 教授　紺家　千津子

表 1－3.　研修日程と内容

日時	研修方法	分野	科目・講師
9 月 21 日（土）			
14：50～16：10	演習	Wound	褥瘡のケア計画とスキンケア 皮膚・排泄ケア認定看護師 木下　幸子、山下　美樹、遠藤　瑞穂、 紺家　千津子
9 月 29 日（日）			
9：30～10：50	講義	Continence	IAD（失禁関連皮膚炎）とスキンケア 金沢大学 医薬保険研究域保健学系 教授　大桑　麻由美
11：00～12：20	講義	Continence	失禁対策 公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　遠藤　瑞穂
13：20～14：40	講義	Wound	下肢の潰瘍のアセスメントとケア 石川県済生会金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　細田　夕子
14：50～16：10	演習	Wound/ Ostomy/ Continence	困っている事例の検討 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤　瑞穂、細田　夕子、紺家　千津子

４．評価

１）受講生のアンケートによる評価

（1）研修内容の理解と活用（図 1～3）

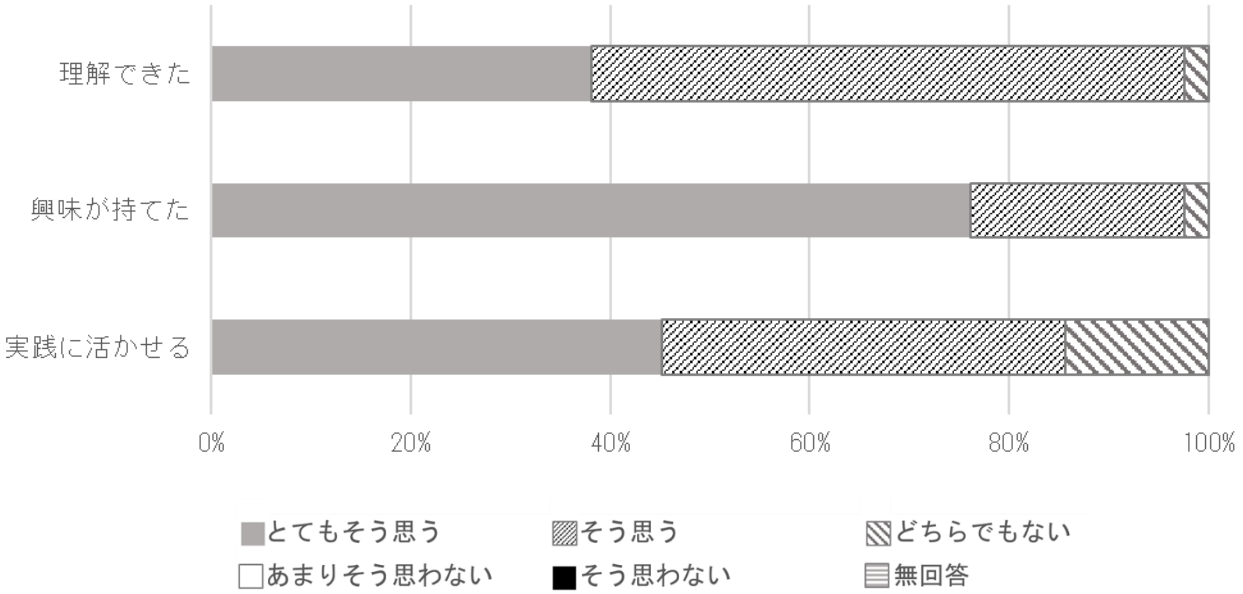

図 1　ストーマケア分野における受講者の評価

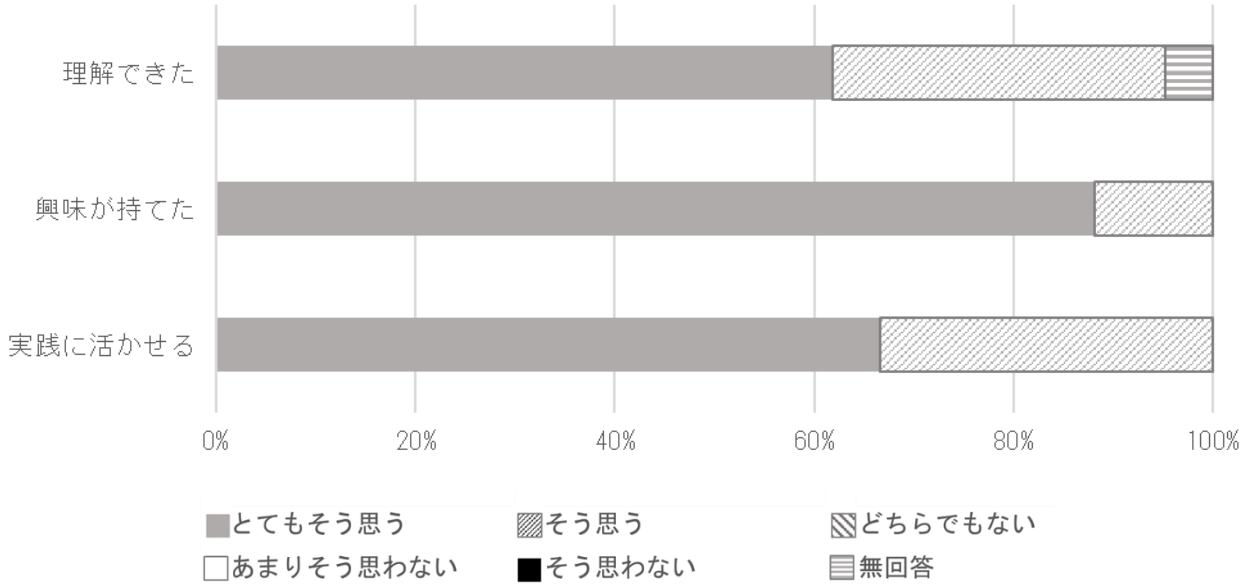

図 2　創傷ケア分野における受講者の評価

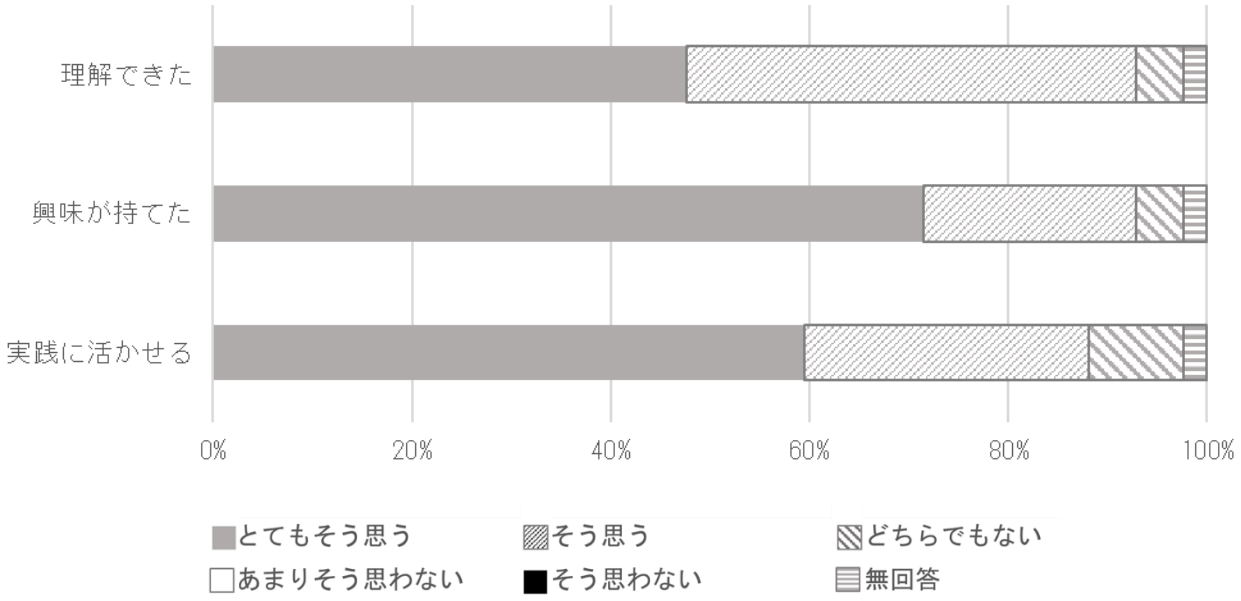

図 3　失禁ケア分野における受講者の評価

（2）自由記載より（抜粋）

・スキンケアの基本的なことから理解できていなかったが、大切なことを理解することができ、誤った知識をもっていたことにも気づくことができた。何よりスキンケアについての興味が前より増した。

・これまで、良いとされているケア方法を習っても「なぜ？」と思うころが多かったため、実践に活かせていなかった。しかし、この研修では、解剖・生理学的な視点からの説明して頂いたことで、ケアそれぞれの根拠が理解できた。

・事例検討では、課題が解決に向かう情報が得られ。すぐ実践に活かしたいと思った。

・正直しぶしぶ参加したが、今の施設の状態と比較しながら研修を受けていくと面白くなったが、一方でこれまでのケアについて反省すべき点が多くあった。出来ていなかったことを振り返りながら、日々業務と指導を頑張ろうという思いになった。

・普段聞けないような素晴らしい講師の方々で、多くのことを学べた。
・講師の先生方もとても明るく気さくに対応してくれたため、5 日間楽しく学習ができた。ここで得た学びを患者さんに活かせるよう、さらに現場の問題解決につながるよう頑張りたい。
・学習したことを院内に周知し、患者さんの皮膚の健康が保たれるようケアをしていきたい。また、来年度の研修を同僚にすすめたい。
・内容の濃い研修で、42 名の受講者と共に 1 か月勉強できたことが今後の励みにもなった。1 人でかかえず周りを巻き込んで、良いスキンケアができるよう頑張ろうと思えた。
・看護の力で出来ることがまだまだあることに気づかされた。

2）全体的な評価と課題

受講生 42 名全員が、8 割以上を受講し修了認定証が交付された。

本研修は、当センターで初めての企画であった。そのため、1 から企画を行ったが、皮膚・排泄ケア看護はここ数年で大きく変革していることを踏まえ、創傷ケア、ストーマケア、失禁ケアに関し、基礎から最新知見まで学べるプログラムとした。また、受講生の学修がより深まるよう、講師陣はこの分野に精通した看護職だけでなく、医師、理学療法士、管理栄養士といった多職種で構成した。研修方法は、講義だけでなく、すぐに実践で活かせる関節拘縮患者のポジショニングや、ICT を利用したストーマケア計画など多様な演習内容を準備した。その結果、受講生より全 3 分野の理解・興味・実践への活用の評価は、いずれも「とてもそう思う」と「そう思う」を併せて 8 割を超えていた。したがって、企画した内容は十分と評価されていると考える。

受講修了後には、学修した内容を施設に還元することが受講者には求められるため、講義資料等を冊子形式にまとめた実施報告書を作成して配布した。

次年度も、本研修を「同僚にすすめたい」と言ってもらえるよう、受講生の学修のニーズを満たし、かつ最新知見等も組み込みながら開催したいと考える。

演習の様子

グループワークの様子

Ⅶ. 石川県看護教員現任研修事業

第 5 次指定規則の改正に対する看護教員のニーズに応え、**「未来をみすえたカリキュラム開発」**をテーマに「カリキュラム改正内容」「カリキュラム開発」の理解を深める研修を実施した。

１．目的・目標

【目的】

これからの時代を見据えた柔軟なカリキュラムの開発を考える。

【目標】

１）看護教育課程のあり方および実践カリキュラムの開発方法を理解する。

２）指定規則の改正の意図を理解し、自らの教育機関のカリキュラム改正の課題を見出す。

３）自らの教育機関に求められるこれからの「看護」の役割を考え、カリキュラム課題を明らかにする。

２．実施状況

	10/5	12/14	2/8
【受講者数】	40 名	125 名	24 名
教育機関		94 名	
病院		31 名	

３．実施内容

表 1.　研修内容と講師

【カリキュラム開発：講義】

開催日	時間	研修内容	講師
10 / 5 （土）	10:00～ 15:00 【公開】	未来をみすえたカリキュラムの開発方法 －開発の考え方とそのプロセス－	東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 准教授　岩本郁子

【指定規則の理解】

開催日	時間	研修内容	講師
12 / 14 （土）	13:00～ 15:00 【公開】	これからの時代を見据えた柔軟なカリキュラムの開発 －第 5 次指定規則改正内容とその意図－	Office Kyo－Shien 池西静江

【カリキュラム開発：演習】

開催日	時間	研修内容	講師
2 / 8 （土）	10:00 ～ 14:30	カリキュラム開発の実際 －求められる「看護」の役割と カリキュラム課題の明確化－	石川県立看護大学 准教授 石川倫子

講演・グループワークの様子

４．評価

【受講者の学び（一部）】

＜カリキュラム開発：講義＞

・多くの資料を集め、整理することが大切だということがわかった。また、カリキュラム開発する時には未来、先を見据えていくことが大切で広い視野で物事を捉える力が重要であることを再認識することができた。

・今までは目先のことを捉えていたが、10 年先を見据えた看護師像を描いたカリキュラムが必要になってくることが参考になった。

・具体的に自校で、カリキュラム評価からどのようにカリキュラム作成を行うかを理解できた。

・自校でのカリキュラム開発に役に立てていきたいと思った。内容の概論的視点は理解できた。

・カリキュラム評価するにはどうしていけばよいかを考えているところだったので何が必要でどう考えていけばいいのかが理解できた。

・職場の中でカリキュラムに対する関心が乏しいことが悩みで、カリキュラムの重要性の部分から話題にしていければとわかった。

＜指定規則の理解＞

・領域横断科目の作り方は初めて聞くことができ、非常に参考になった。

・病院内の教育担当者として参加した。教育担当者として看護学生がどのような教育を受けてきてるのかを理解することが、新人看護師育成にとても大切だと思った。また、指導者となる先輩看護師にも理解を促すことが未来の看護師を育成することに大切だと思った。

・専門職間連携の研修など、教員のレベルアップが必要だとわかった。学生の学習環境を整えることを早速しなければいけないと学んだ。求められる学生、学校を考えていきたい。

・看護は病を持つ人に限らず、生活者を理解し、そこから始まるのだということを学んだ。考え方がかかってきていることを実感した。

・カリキュラムは、看護師の教育に取り入れる考え方もあるのではないかと思った。また自分の時代とは違う看護師達を受け入れる側としての教育プログラムの組み立ても考えていきたいと思った。目的を明確にしてわかりやすい教育プログラムを作成したいと思った。
・自分が普段から考えていることが間違っていないとわかった。これからはジェネラリストを育てることが最重要だと思うので、学生ひとりひとりが基本と幅広い知識として自信がもてるように、考える力がついたと実感できるように関わっていきたい。

＜カリキュラム開発：演習＞

・他校の現状も聞けてとても参考になった。記録の弊害について共感できた。
・これから自校で考えていくにあたって、とても有意義だった。教員それぞれが自分の考えを述べていくことの重要性を感じることができた。カリキュラム改正が難しくて大変そうと思っていたが、今日の研修で何とかやっていけるかもと感じられた。
・他校の先生の意見が聞けて幅が広がった。普段自分が行っている教育の方法に迷いがあったが解決の糸口へとつながった。
・実際にディスカッションすることで、明確化することができた。
・逆向き設計による教育課程の考え方、具体的な目標のあげ方がわかった。記録の弊害の共有ができ、授業の方法もわかった。

【全体評価】

カリキュラム改正に向けて、これから求められる看護師を育成するためにどのようにカリキュラムを開発していくかその考え方と厚生労働省「看護基礎教育検討会」の意図を講義、演習と３回シリーズで行った。講義で新たな知識を得、その知識と看護教員のこれまでの経験知を活かして、演習ではディスカッションを繰り返した。上記に示す受講生の学びから、概ね、研修の目的は達成できたと考える。

５．今後の課題

カリキュラム改正の教育内容については理解が深められたと考える。そのうえで、教育方法の理解を深める必要があると考える。そこで、「教えるから学ぶへ」と時代は変化してきているため、改めて「学ぶとは」の理解を深め、ディープアクティブラーニングの理解やその具体的方法を企画していきたいと考える。

Ⅷ. 教育課程継続に関するニーズ調査

１．目的

北陸 3 県における認定看護師教育課程と認定看護管理者サードレベル教育課程の開講ニーズを把握し、開講計画に役立てる。

２．方法

1）期　　間　　令和元年 7 月実施

2）方　　法　　無記名自記式質問紙調査

3）対　　象　　北陸 3 県の医療施設・介護施設・訪問看護施設の看護部長、もしくはそれと同等の職位の者

4）質問内容　　各教育課程の既資格取得者、受講者（調査時現在）、分野別および A 課程（従来の認定看護師制度）、B 課程（新たな認定看護師制度）についての今後受講予定者数。教育課程への要望・意見等自由記載

３．結果

638 施設に配布、207 施設より回収した（回収率 32.4%）。有効回答は 207 施設（有効回答率 100%）で、石川県 109 施設（44.9%）、富山県 55 施設（24.4%）、福井県 42 施設（24.7%）であった。各課程の結果を表 1、表 2 に示す。

表1 各教育課程の資格取得者、受講予定など

（人）

分野	資格取得者数	現在受講中	受講予定年度					
			2020		2021		2022以降	
			A	B	A	B	A	B
感染	106	3	20	－	5	12	2	17
認知症	69	24	－	－	4	12	4	21
WOC	67	2	－	－	－	30	－	36
在宅ケア	5	7	－	－	－	19	－	29

表2 認定看護管理者教育課程の資格取得者、受講予定など

（人）

セカンド修了者	セカンド受講中	サード資格取得者数	サード現在受講中	受講予定年度		
				2020	2021	2022以降
429	54	90	9	29	32	47

４．まとめ

認知症看護、感染管理、皮膚・排泄ケアの３つの認定分野に関してニーズが高かった。認定看護管理者（サード）に関しては 2020 年に 25 名以上のニーズがあった。いずれも臨床現場での受講調整などの課題もある。今後もニーズ調査を適時行い、それを踏まえて教育課程を検討してゆく。